



※「ガッチャンコ」とは…

「くっつける」「ひとつになる」という意味で使われる言葉。HBCが、人と人、地域と地域を「つなぐ」存在でありたいという願いがこめられています。

2022年4月26日

科学ジャーナリスト賞 優秀賞 受賞

HBC 制作テレビドキュメンタリー番組

「ネアンデルタル人は核の夢を見るか ～“核のごみ”と科学と民主主義～」

HBC北海道放送が制作したテレビドキュメンタリー番組「ネアンデルタル人は核の夢を見るか～“核のごみ”と科学と民主主義～」(2021年11月21日放送)が、科学技術に関する優れた報道や啓発活動などを顕彰する科学ジャーナリスト賞の優秀賞を受賞しました。

高レベル放射性廃棄物の最終処分場誘致に名乗りをあげた北海道寿都町の葛藤を地元テレビ局にしかできない現場密着のドキュメンタリーとして描いた点が評価されました。HBCの受賞は初めてです。また、北海道内の個人・団体でも初の受賞、民間放送では3度目となります。

【番組名】

「ネアンデルタル人は核の夢を見るか
～“核のごみ”と科学と民主主義～」

ディレクター 澤出梨江

プロデューサー 山崎裕侍

【放送日時】

2021年11月21日(日)

午前1時58分～午前3時28分



【内容・見どころ】

去年8月、北海道の寿都町と神恵内村で、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物、いわゆる「核のごみ」の最終処分場選定の応募に向けた動きが明るみとなりました。住民説明会では反対意見が続出。賛成派の住民も少なくなく、マチは二分されていきます。寿都町長は住民投票を求める声があるにもかかわらず、「肌感覚では賛成派が多い」として2か月で応募に踏み切りました。神恵内村も、同じタイミングで応募を表明しました。核のごみは地下300メートルより深い場所に埋める地層処分です。人体に影響がない放射線量になるのは10万年後とされます。いまから10万年前はネアンデルタル人がいた時代です。衆院選では核のごみが大きな争点とならないまま、10月には寿都町長選挙が行われ現職が勝利しました。反対派の候補が4割以上も得票するなど、マチの分断はより深りました。

私たちは10万年後まで責任をもって核のごみを処分できるのか。処分地の決め方はどうあるべきか。先送りできない課題が突きつけられています。5月に放送した番組からさらに南鳥島をめぐる新たなインタビューや寿都町長選挙などの動きを交えて、“核のごみ”がつづけた科学と民主主義のありようについて考えます。

■科学ジャーナリスト賞(JASTJ 賞)とは (日本化学技術ジャーナリスト会議 HPより <https://jastj.jp/info/20220426/>)

科学ジャーナリスト賞は、科学技術に関する報道や出版、映像などで優れた成果をあげた人を表彰します。受賞者は原則として個人(グループの場合は代表者)とし、新聞、テレビ、ラジオ、出版といったマスメディアでの活動だけでなく、ウェブサイトや博物館での展示などまで幅広くとらえ、また、優れた啓蒙書を著した科学者や科学技術コミュニケーターなども対象としています。日本科学技術ジャーナリスト会議が設けた賞であることから、社会的なインパクトがあることを重視して選考されます。

■「ネアンデルタール人は核の夢を見るか～“核のごみ”と科学と民主主義」その他の受賞

2021年12月 第76回文化庁芸術祭優秀賞

2021年 メディア・アンビシャス映像部門北海道賞

＜お問い合わせ＞ HBC北海道放送 コンテンツ制作センター報道部

(Tel : 011-232-5872)